【 31 】

氏名	片 山 竣 介
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1549 号
学位授与の日付	昭和60年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**側視型頸管内視鏡 (Cervicoscopy) による子宮頸管内病変の検索** **ー治療縮小化における有用性ー**
論文審査委員	教授 小川勝士　教授 粟井通泰　教授 大森弘之

学位論文内容の要旨

側視型の Pan–endomicroscopy を Cervicoscopy（頸管内視鏡）として用い，その診断的価値を検討した。子宮頸癌またはその疑いのあったもの127例を対象とした。最も有用な Cervicoscopy 所見は頸管内血管像であり，正常像を2型，異常像を6型に分類することができた。頸管内に初期浸潤癌以上の病変を有する場合は，(1)〜(6)型の種々の異常所見が見られ，なかでも異型性の強い5型 (green asparagus–like vessel)，(6)型 (root–like vessel) が高頻度に出現していた（初期浸潤癌：5型16.7%，6型55.6%，浸潤癌：5型45.0%，6型85.0%）。Carcinoma in situ 以下には(5)(6)型は認められなかった。Cervicoscopy にて頸管内病変の有無判定を試み，組織学的に検索したところ，初期浸潤癌以上では90.0%と良好な診断率を得た。40例の Unsatisfactory Colposcopic Findings 症例について本検査による子宮頸部円錐切除診の削減を試みたところ，19例を省略することができた。また術前術後の組織学的検索から Cervicoscopy 判定の妥当性が証明され，本検査法の有用性が明らかとなった。

論文審査の結果の要旨

本研究は側視型頸管内視鏡を用い，子宮頸癌ないしその疑いのある127例を検索し，血管像を正常2型，異常6型に分類して組織学的所見と対比したところ，初期浸潤癌以上の進行例については90%の診断率を得たものであるが，頸管の観察に側視型内視鏡を利用することにより，円錐切除診の頻度を減らして患者に苦痛を与えることなく子宮頸

癌の早期診断を行う極めて有用な方法を開発したものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。